

第一回大阪府庁財政研究会 議事要旨

日時：平成20年8月29日（金）10時～11時5分

場所：査定室（本館4階）

（議長から研究会設置の趣旨、検討課題、今後のスケジュールを説明）

結論

- 12月までに一定のとりまとめ案を公表することで合意。
- 検討課題については、研究会での議論等を踏まえ、今後追加することもあり得る。また、ABCの分類にこだわらず、議論を進めることもある。
- 委員は部の代表として意見を述べることも、個人の知見で意見を述べることも可とする。

（以下、委員の主な発言）

検討項目について

- 1つ1つの課題が重く、かなり議論に時間がかかる。21年度の予算から反映し、いものと中長期的に議論するものとを仕分けし、来年度までに実施するものを優先して議論すべき。
- 現状のルールを議論するだけでもこの研究会は成果がある。あとは掘り下げ方の問題。
- 既存のルールが確立されているのであれば、課題の点検はすぐにできるのではなか。
- 効率的に議論をすすめるため、既存の財政ルールについて、事前に事務局で整理しておいてほしい。
- 研究会を立ち上げるからは、新たな財政ルールを作ること为目标にすべきではなか。
- 財政課だけだと健全化路線一辺倒になる。庁内の多様な意見の反映が必要。必ずしも新しいルールの設定だけを目的にしなくてもよい。既存ルールの継続を確認するケースがあってもよい。
- まず、自治体経営の観点から、将来的な財政の姿をどうしていくかを議論すべきではないか。その結論のもと各論がぶら下がってくるのではないか。
- トータルの目標など総論を議論し始めるとそれだけで一年くらいかかる。各論を議論していくことで総論ができあがっていくのではないか。議論の順番の問題。
- 何が正しいのか、どこまで必要なのかは、府民、議会がどう評価されるかによる。そのためには、財政状況や財政運営のルール等を府民にわかりやすく伝えることが必要であり、「見える化」を検討すべき。

研究会の議論のまとめ方

- 研究会としての意見と外部有識者の意見が異なるとき、どのようにまとめるかが

しい。

- 庁内のオーソドックスな考え方に外部の意見をもらうことに意義がある。
- まず議論を始め、まとめ方については検討していく。

※読みやすいように事務局で編集している。

<以上